

八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅 ニュースレター

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

NEWS LETTER

発行部数 3,000 部

Vol. 34

2017年10月発行

通常展 / アンケート2017

## 大和川付け替えと 植田家の収蔵品

夏休み工作体験

## 土蔵でクラフト

“鳥”展

開催中!

(12月24日まで)

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十八)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

# 展示のご案内

平成29年度 秋季企画展  
**植田家に潜む“鳥”**

2017年  
**10/26(木) ▶ 12/24(日)**

休館日：火曜日、11月6日(月)・24日(金)  
※期間中一部展示替えあり(11/29～後期)

(観覧時間) 9時～17時(入館は16時30分まで)  
【入館料】一般250円、高校・大学生120円  
中学生以下は無料 ※障がい者6歳以下は半額

**11/18(土)・19(日)**は、「関西文化の日」により  
入館料が**無料**になります。

**11/25(土)** 企画関連 講演会  
**「文化財の中の探鳥」**  
14:00～15:30 講師：須川 禎氏(徳島大学文学部学芸員兼助教授・日本鳥学会会長)

**関連イベント**  
●11/19(日) ①13:00～②14:00～(各10名)  
昔遊びの日(museum)「手袋で鳥を作ろう」  
●11/23(水・祝)13:00～、14:00～、15:00～  
チャラリートーク(3歳以上門内係、各20名) ※無料

♪ピーちゃん、  
ピッピちゃん  
大集合♪

八尾市指定文化財  
**安中新田会所跡 旧植田家住宅**  
〒581-0084 大阪府八尾市植田町1-1-25 TEL:072-992-5311 <http://kyu-uedakejotaku.jp/>

平成29年度 秋季企画展

## 「植田家に潜む“鳥”」

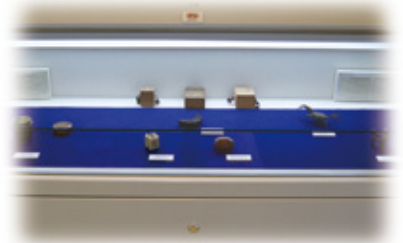
2017年10月26日(木)～12月24日(日)

掛軸を中心に、植田家の収蔵品に隠れた”鳥”を集めた展示です。ただいま鳥観察中。

※休館日はP15をご覧ください

## Contents

- 4 通常展／アンケート 2017  
大和川付け替えと植田家の收藏品
- 6 2017年 夏休みの覚え書き
- 7 講座  
「今東光が描く“魅力の男”弓削道鏡」
- 8 夏休み工作体験  
土蔵でクラフト
- 10 インターンシップを終えて
- 11 四会所だより(14)-安中新田会所-
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ③④
- 13 体験！かまどでご飯炊き
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (二十八)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



### 表紙写真

#### 《松鶴図》旧植田家住宅 座敷1襖絵(部分)

明治初期に設えられた座敷の襖絵。金襖には松のほか5羽の鶴と3匹の雛鳥が精緻に描かれ、鶴はタンチョウとマナヅルの2種類が明確に描き分けられている。なおこの種の鶴の雛は生物学的には樹木の上には生息しない。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>



指定文化財の「検地帳」を含む古文書を展示

## 資料編

2017.7.14~8.31



【通常展】

# 大和川付け替えと植田家の収蔵品



工芸品の優品をそれぞれ紹介する



## 工芸品編

2017.9.2~10.22



### 通常展「大和川付け替えと 植田家の収蔵品」

2009年の開館当初より、施設のテーマである「大和川付け替え」と「植田家」については、常設展示と各企画展の他、現在「通常展」として固定のパネルを用いた展示を年に数回行なっている。これまでも紹介したことがあるが、河内平野の変遷に始まり、植田家が今日までどのように歩んできたのかを年表の形式で知ることができる。これに加えて、テーマを補足するパネルや資料を展示し、毎回展示物も少しずつ変わるなど、常設展と企画展との両方の要素を持つ。

今年度の7月より通常展は、植田家の収蔵品の意味合いを強めるべく、タイトルも新たに、それぞれ副題を持つて展示を行なった。優品を数多く所蔵し、また歴史的・文化的にも価値を有する資料が八尾市にのこされていることを広く伝えるとともに、いつ訪れても驚きと発見が来館者を待っている。

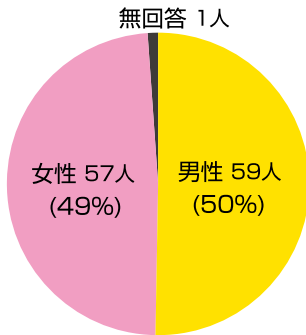
なお、4月から7月にかけて実施したアンケート結果を次ページに掲載中。今後もよりよい施設づくりに励みたい。

(旧植田家住宅学芸員 安藤亮)

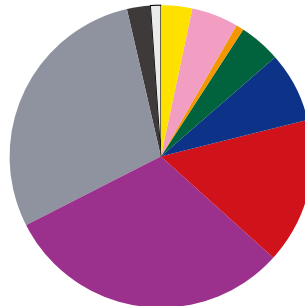
# 2017年度 利用者アンケート 結果

ご協力ありがとうございました。

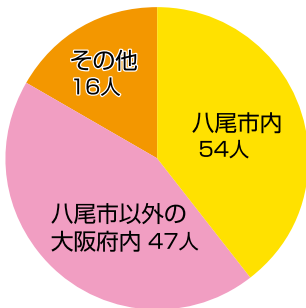
期間 2017.4.28 ~ 7.10  
回答枚数 **117** 枚



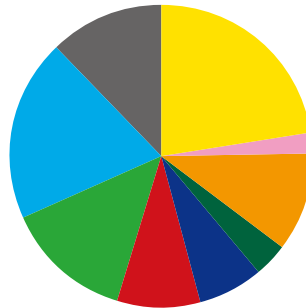
Q1. 性別?



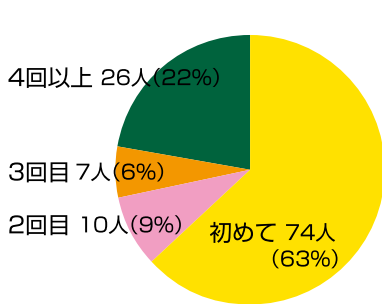
Q2. 年齢?



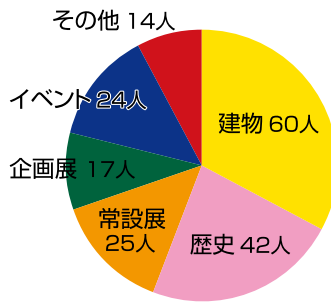
Q3. お住まいの地域は?



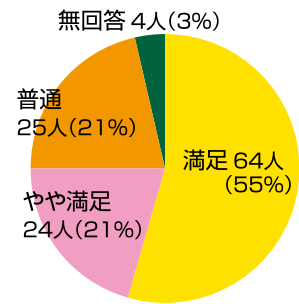
Q4. 旧植田家住宅を  
何で知りましたか?



Q5. 何回目の来館?



Q6. 来館した目的は?



Q7. 展示について?

●こんなにすばらしい所があるとは思わずにそのまま立ち寄りしましたが、とても良かったです。(50代男性) ●昔の物がたくさん残っていてよかった(15歳以下女性) ●昔のくらしがよくわかりました。田舎にあるものもあって、なつかしさもありました(40代女性) ●保存は大変だと思いますが、便利な今だからこそ、昔のこういう生活にあこがれます(60代女性) ●「燈台もとぐらし」身近にこのような素晴らしい所があったとはビックリ！未永く保存を。「誇り」ですね。(60代男性) ●八尾市はいつもこの様な古い建物や歴史を大事して残す事を考えておられるのには感心して居ります(80代男性) ●木や畳のにおいがして居心地が良かった。(10代男性) ●79才 昔懐かしき品々を観させて頂き感無量でした(70代男性) ●昔のほっとする時間にめぐり会えました(60代女性) ●時間がなかったですが、昔の建物を知る事ができ、良かったです。又、ゆっくり来たいです。(30代女性) ●日本は昔の建築物をすぐに取りかわして新しい建物を建てるので、こういう昔の建築物は出来るだけ後世に残していって頂きたいと思います。(40代男性) ...etc

2017年

# 夏休みの覚え書き

●「冷やし旧家」は今年も大盛況。

入館者が少ない夏も、現在はこの企画で子どもを中心に、にぎわう。

・井戸水で足水体験

企画終了後もまだやりたいという声か。

・期間限定の飲料(ラムネと冷やし甘酒)も好評。

足水体験とセットが定番のスタイル。

・蚊帳展示&体験

展示場所を去年の土蔵から座敷に移動。

夏の雰囲気引き立つ。

4つの部屋だけ簾戸に入れ替える。

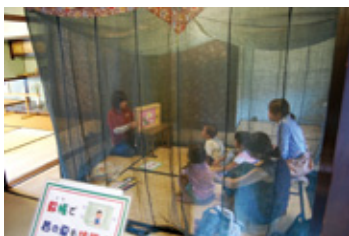
風通しと見た目にも涼しい。

準備は大変。



「蚊帳の中で読み聞かせ」

少人数だが今年も2週に分けて行う。蚊に邪魔されない空間でゆったり。



「夏のお茶会」

・地元八尾高校茶道部のみなさんの協力。

毎年1月の「子どものためのお茶会」と違って、

幅広い年齢層が参加。

・高校生たちは日頃の成果を発揮!?

・建物の活用、地域交流の場としても有効

暑さを忘れて、みんな笑顔の特別な時間に。



「17夏休みざっくりスケジュール

終了

7月15日(土) 「冷やし旧家」はじめる

25日(火)・26日(水) 渋川神社夏祭り

28日(金) こどもガイド(夏) ※洗たく体験

8月4日(金) 土蔵でクラフト 第1回

チャレンジ80℃冷やし旧家

6日(日) 新田会所シンポジウム(四会所)

10日(木) こどもお仕事体験

11日(金) 土蔵でクラフト 第2回

18日(金) 土蔵でクラフト 第3回

20日(日) 夏のお茶会

21日(月) 桂青少年会館 ※ご飯・昔遊び・見学

23日(水) 安中青少年会館 ※昔遊び・見学

24日(木) 四会所交流会 ※欠席

25日(金) 土蔵でクラフト 第4回

9月1日(金) 展示替え

2日(土) 木綿体験、蚊帳で読み聞かせ①

3日(日) かまどでご飯炊き体験

5日(火) 古民家ネットワーク

9日(土) 蚊帳で読み聞かせ②

10日(日) 「冷やし旧家」終了

# 今東光が描いた “魅力の男” 弓削道鏡



講師：伊東 健氏(今東光を語る会)

「講座」

## 「今東光が描いた魅力の男」弓削道鏡

東弓削遺跡(由義寺跡)での瓦や塔基壇などの発見により昨年度から注目の集まる弓削(由義)関連の講座として、その中心人物である弓削道鏡について、お馴染みの伊東健氏(今東光を語る会)が今東光の作品からその人物像に迫った。本講座では、今日でもネガティブなイメージが伝えられている道鏡の評価について、歴史を遡り、その起源を探った。

まず道鏡については、一次資料として「続日本紀」「日本後記」等で伝えられ、その後の資料においては平安時代の「日本霊異記」、鎌倉時代の「古事談」「水鏡」などで言及されるという。いずれにおいてもその評価は低く、悪名が高い人物として知られるようになる。

講座の冒頭で伊東氏は、この弓削道鏡と今東光についていくつかの共通点を見出した。悪名高い坊主であることはそのままのイメージであるが、二人の境

遇や考え方、生き方などその奥にあるものまでが共通すると言い、このイメージの先にある本来の部分を東光は作品で表現したかったのではないかと考える。

明治以降の道鏡に対する評価についても同じイメージは引き継がれたままであるが、その後、幾多の歴史学者や作家たちによって徐々に新たな視点が開かれ始める。東光の「弓削道鏡」にはそれらの影響が随所に見られると伊東氏は指摘する。そのことを作品が描かれた時期や作品の特徴から分析し、今東光が弓削道鏡を「魅力の男」として描いたことを最後に明らかにした。

講座は道鏡の評価史だけに留まらず、今東光の作品を通して知られざる道鏡の一面を開示するものであった。このことが今後の弓削の評価(＝八尾市の評価)を高めることにつながることは間違いないだろう。

(学芸員 安藤亮)



知られざる道鏡の一面をひも解く

## 第1回 木綿の実綿で動物を作ろう



かわいいワンちゃんの完成！



下絵を参考に鼻を付けます



裁縫が一番の難所？



見本の「犬雛」祭り



第1回は河内木綿の実綿とハギレを使って綿の犬雛作りをしました。綿繰り、綿打ちをした後、布を型紙にあわせて裁断し、縫うのがこどもたちには多少難しかったようですが、それぞれイメージに描いたかわいいワンちゃんに仕上がりました。

# フト土蔵でクラフト土蔵でクラフト土蔵で



おまけの「ゴムてっぽう」作り



錐を使って穴をあけます



竹の切断面にヤスリをかける



勢いよく飛び出る水。よーくのを狙って…

## 第2回 竹で水てっぽうを作ろう + a

第2回は昔の遊び道具「水てっぽう」を作りました。竹に錐で穴をあけたり、棒に布を巻き付けて完成。外に出て、いよいよ発射！勢いよく水が飛び出し、思う存分、的当てを楽しみました。また、5分で出来る「割り箸ゴムてっぽう」もおまけで作り、昔の遊びを堪能しました。



### 第3回 手袋で鳥を作ろう



黙々と作業に熱中する参加者



リボンをつけておしゃれに



クチバシを作成中

第3回は手袋を使って鳥(アヒル)のマスコットを作りました。手袋はふわもこでのびるタイプを用意。指部分に球体を詰め、残りを中に織り込むと、なんと鳥の形になります。クチバシはクリップを使って位置が変えられ、作ってから何度も楽しむことが出来ます。所要時間30分。



カラフルな鳥がたくさん出来上がりました

## 土蔵でクラフト 土蔵でクラフト 土蔵でクラ

### 第4回 編み機でミニ簾を作ろう



まずは簾についての説明



作業スタート



出来上がった簾にもう一工夫

第4回はボランティアスタッフが担当し、オリジナル簾編み機での「ミニすだれ」作りを体験しました。単純な装置(仕掛け)ながらも、昔の手法で簾を編むことができ、子どもたちは夢中になっていました。完成後は、折り紙などで装飾し、世界にひとつだけの簾の完成です。



スダレマン、参上!?



完成!!

# インターンシップを 終えて



この度、私は、8月9日(水)から9月11日(月)までの合計13日間、近畿大学文学芸学部のインターンシップ生として旧植田家住宅で学芸業務の補助を経験させていただきました。

様々な体験の中でも印象的だったのは、8月の毎週金曜日に開催された「土蔵でクラフト」をはじめとする子どもたちを招いてのイベントや、納涼企画「冷やし旧家、はじめました。」での足水体験、ギャラリーにあるナゾナゾを楽しむに来館する子どもたちについてです。大人の方の来館者ももちろんいらつしゃいますが、夏休み中であるにも関わらず毎日のように、中には1日に2回以上来館する子どももいるほどで、とても驚きました。

私の地元には気楽に立ち寄ることのできるような博物館は無かったのですが、博物館についてある程度学んだ今考えると、小学生の頃から身近で気軽に来られる博物館

があるような環境で生活できるというのは非常に素晴らしい事であると感じました。また、大学生になってから博物館や歴史的な展示物について勉強を始めた身としては、羨ましさも同時に感じていました。

インターンシップ中の空き時間などに貸していた読んで読んだ本の中に『放課後博物館へようこそ』地域と市民を結ぶ博物館』という本がありました。この本において紹介される「放課後博物館」とは、国立博物館などの遠足で行くような大型博物館と比較して気軽に、放課後に遊びに行くような博物館」といった意味合いですが、夏休み中に毎日来館する子どもたちを見ると、まさに旧植田家住宅はこの「放課後博物館」と言えるのではないのでしょうか。放課後博物館と言いますが、これは来館する事に対しての気軽さを表すものです。

夏休みの期間中に行われたインターンシップであったこともあり、今回は子ども向けのイベントに多く関わらせて頂きましたが、大人数のイベントも数多く催されますので、これからは来館者としても旧植田家住宅から様々な事を学び続けたいと思います。

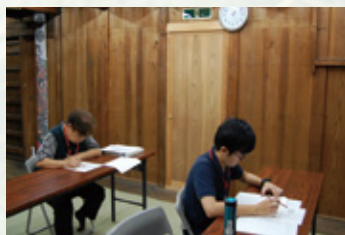
(近畿大学4年生 岡島颯斗)



子どもと一緒に周辺の掃除(お仕事体験)



「土蔵でクラフト」にて簾編みのサポート



「ボランティア養成講座」にて検定試験中



「こどものお仕事体験」にて資料調査



「土蔵でクラフト」にてゴムてっぼう作り

# 四会所だより (14)

〜現在いまにみる安中新田と旧大和川〜

宝永元年(1704)の大和川付け替え以降、旧大和川跡は新田開発によって広大な土地(耕作地)へと生まれ変わりました。現在は都市の急速な発展によって新田のエリアは分かりづらくなっています。

航空写真で、昭和23年(1948)の安中新田会所(旧植田家住宅)周辺のまちなみを振り返ってみると、今の長瀬川(旧久宝寺川)がかつての旧大和川であったことが、まだ新田の形としてはつきりとみることが出来ます。そこからおよそ60年後の平成19年(2007)には、すでに町と一体化し、新田との区別がなくなっています。この過渡期には、とりわけ大阪では1970年の大阪万博や1964年の東京オリンピックによる都市開発が背景にあり、人々のくらしも大きく変化しました。

上空からでは分からずとも、現在でも天井川であった旧大和川の堤跡が分かるポイントもあり、そのいくつかを紹介します。



昭和23年(1948)

国土地理院 空中写真



平成19年(2007)

国土地理院 空中写真

● 安中新田会所跡

① 狐山(八尾高校敷地内)

いわずと知れた旧大和川の堤跡とされる小高い山。

② J・R八尾・渋川踏切南の

駐車場の段差

旧大和川が北へカーブする辺りの堤跡とみられる

③ 安中小学校周辺の坂道

長瀬川の北(右岸)の堤跡。周囲にも段差や坂が残る。



③

旧大和川の堤跡は、探せばまだまだたくさん残っています。ぜひ他の新田でも見つけてみてください。

(安中新田会所跡 安藤亮)

## ◎ こちらも注目!

新風書房『大阪春秋』第167号  
特集「新田開発と新田会所」  
(2017年7月発行 A4版 120頁)  
(定価1,000円+税)  
書店または旧植田家住宅でも  
好評販売中



②



①

# なにわの伝統野菜 栽培日記

No.34

「ウリハムシと勝間南瓜」

今年はどういうわけか、ウリハムシの数が尋常ではない。今までにもいるにはいたが、植物の成長を害するほどではなかったのだが。

ウリハムシとは、春から夏にかけて発生するハムシの一種で、キュウリやカボチャなどウリ科の

植物を好み、葉脈を残して葉を円弧状に食害し、穴だらけにする。ひどい場合、葉が網目状になりボロボロのレース状態に…。



ボロボロのレース状態に…

このような悲しい状態になったものの、葉を使わず何とかお馴染みの「勝間南瓜」と「黒筒越瓜」は、無事収穫することができた。



さて、何匹いるかな？

しかし、「何とか無事」な割に、勝間南瓜に関して、なぜか近年では稀にみるほどの収穫量となった。型や大きさも理想的なものが多い。…ミラクルだ。

本来小ぶりの勝間南瓜だが、じつは数年前から段々と大型化してきていた。ここ旧植田家住宅の畑で栽培している伝統野菜は夏野菜・冬野菜ともに、ある程度の周期で各機関から種を分けて頂き、なるべく変異幅が小さく本来の姿を少しでも保てるようにしてきた。

ただ、この勝間南瓜だけは栽培当初か



近年まれにみる収穫量

ら変わることなく同じ血統で来た(自家採種)。なので5年前、収穫したものをひとつひとつ計り、その中でも本来の姿により近いものを厳選して種をとった。次の年も、そしてまた次の年も。これを続けて今年収穫できたものは3株で68個。未熟なものや終盤にできたものを除いて、ほぼ全てが800gから1000gと申し分のないものだった。

そしてこの優等生たちは、12月3日に旧植田家住宅で行われる「旧家で愉しむ食事会」の日までスタッフ宅の冷蔵庫でこれから約2カ月の間、大切に保管され、参加者の方々をもてなす事になるだろう。いま畑では年末、リベンジを果たす予定の田辺大根たちが元気な姿を見せている。



理想の形と大きさを  
イツ・ア・ミラクル!

# マンジーくん

安富士 暁



「防災の日」(9月1日)にちなんだ恒例の「かまどでご飯炊き体験」を、9月3日(日)に実施しました。今年は小学生の参加も多く、にぎやかに、楽しく学ぶことができました。

まず、薪と羽釜でのご飯炊き体験は、昨年好評だったジッパー付保存袋での炊飯も同時に行ないました。これは、1合分の米と水をジッパー付袋に入れて袋ごと「釜茹で」するというもので、災害時には難しい技術もいらず、1人一袋ずつ配ることができ、食器も必要なく食べられるという便利な方法です。ただ、炊き上がってからかまどで炊いたご飯と両方を試食した参加者は、みんな「やっぱりかまどのほうがおいしい!」と口を揃えていました。

## 体験! かまどでご飯炊き

そら、そうやね(笑)!

今回も最新の防災グッズの紹介(折りたたみ式ヘルメットなど)の他、防災用保存食品(缶詰パンとお腹で30倍に膨らむシード入りキャンデー)の試食もして興味深々、お腹もいっぱい。小学生の参加者が多かったので、万が一通学路で地震が起こった時の対処の方法なども話し合い、

「まずは自分の命は自分で守り、次に大人の人に助けを求めて、安全なところに避難する」「普段から危険な場所は確認しておき、近づかない」ことなどを学びました。

災害はいつ起こるのか分からず、起こらないにこしたことはないけれど、普段から意識と知識を持つていれば、いざという時にきつと役に立ちますよ。

(旧植田家住宅 澤田知英子)



右の釜でジッパー付保存袋での炊飯をしながら、左の釜ではご飯の炊き具合を湯気と音で見極める。



↑防災グッズを紹介  
←マッチでの火の点け方

## 落穂拾い

## ― 今東光の董風 ― (二十八)

文・伊東健

「乙女らに男立ち添い踏みならず西の京は万代の宮」と、「続日本紀」には由義宮で催された歌垣について記されています。歴史書に刻まれたこの一行は作家の想像力を刺激しました。今東光が「弓削道鏡」を書いた理由は、この描写に凝縮されているのではないかと考えるほどに情熱あふれた由義宮讃歌をご紹介します。

由義宮の御門は、その夜に限って八文字に開かれていた。衛士達は諸方に篝を焚いてここにこしながらその門を通過する老若男女を迎えた。新しい行宮は彼方此方の庭燎に照り映えて白く輝いている。白木の宮殿だけれども河内野に俄かに出現した御殿は、土の上を這って暮している彼等の眼にはまるで夢のように美しく映るのだ。御殿から御殿に渡る渡り廊を宮仕への男女が急ぎ足に往き交しているのが影絵のように見える。御殿の御庭には何千という群集が奔いた。これが河内の歌垣だ。

音頭取りが何か歌いはやした。

若い男女の群れが波のように揺れたかと思うと、ぎざぎざと音立てて踊りはじめた。小さな環が大きな環に膨れあがり、その環の外側にも一つ一つの環が出来ていき、やがてそれは三重にも五重にも環が重なった。その環はそれぞれ右に左に巻いて行くので、入れ違いになる男女は、はやしの合間に盛んな喚声を挙げるのであった。

夜が更けるに従って歌垣はずんだ。それを取り巻いて何千という群衆が見物していた。彼等は踊り手の巧みな者の名を連呼したり、花形の若い女に声援を送るのであった。

(『弓削道鏡』昭和三十五(一九六〇)年、文藝春秋新社発行より)

歌垣のこのイメージは明らかに河内音頭でしょう。河内音頭の源流が歌垣であるかどうかは諸説あるでしょうが、東光は承知のうえで、さらに次のように書ききったのです。

やがて音頭取りが益々声を張りあげて淫らな相聞歌に及んだ。その男女の哀歎の歌声が夜空にひびくと、

「禪師公は如何に」

と女帝は問いたもった。すると禪師公は金欄の

袈裟を脱ぐと法衣の袖をたくしあげて歌垣の中へ踊って入って行った。

「わあっ」

という歓声が挙った。(中略)

「いや。はや。もう他愛もないことぞ」

道鏡禪師は庶民の風格まる出で大きな声で笑った。女帝は禪師公が大臣の頭采をもって尚自分を慰めようと人民と共に踊って見せたこと知って、いよいよ彼に傾倒するのであった。藤原氏の公達ならば、汗臭い人民の中には到底降りて行く勇気はないのだ。それなのに禪師公はまるで葛城山の猿と一緒に寝起きたときのような顔付きで、けろりとして彼等と共に踊ってきたのだ。

この無礼講に近い歌垣は史にとどめていない。史にとどめられた歌垣は、まったく作られたものが今日に伝わっているに過ぎない。至尊の勅覽に供える歌垣というので、殊更にそういう歌垣を催したのであろうが、そんなものは面白くもなんともないのだ。(引用…前掲書)

東光は河内八尾の郷土文化へ最大級の愛情表現を示したわけですが、歴史の渦に消え去った、人間くさい道鏡の魅力を浮き彫りにするその技量と覚悟にも驚かされます。

【2017年11月～2018年1月】

# 旧植田家住宅のご案内

## 今後の展示・企画

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」  
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

### 展示

2017年

◎10月26日(木)～12月24日(日)

秋季企画展「植田家に潜む「鳥」」

◇11/23(木・祝)ギャラリートーク(学芸員による展示解説)  
13:00、14:00、15:00 各20分程。同内容

2018年

◎1月5日(金)～3月11日(日)

冬季企画展「昔のくらしシリーズ:衣の道具」

◇2/11(日・祝)ギャラリートーク 時間未定

※1月5日(金)～31日(水)ギャラリー展示(同時開催)

展示、イベント等のお知らせは  
ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



### 企画

(詳しくはお問い合わせください)

11月 1日(水)～30日(木)河内の古民家めぐりスタンブラー実施中

18日(土) 植松灯笼の日(夜間開館) 17:00～20:30

19日(日) むかし遊びの日(&手袋で鳥を作ろう) 13:00～16:00

25日(土) 講演会「文化財の中の探鳥」(講師 須川恒氏) 14:00～15:30 ※要申込み

☆18日・19日は「関西文化の日」により、入館料が無料になります

12月

3日(日) 旧家で愉しむ食事会 18:45～20:30 ※要申込み

9日(土) こどもガイド体験講座(冬) 14:00～15:30

10日(日) 「新版八尾市史 近世資料編1」で読む植田家文書 14:00～16:00

23日(祝) すこし昔のくらし体験「おもちつき大会」 10:00～正午

2018年

1月 6日(土)～15日(月) 旧家で記念撮影～成人の日～

21日(日) こどものためのお茶会 10:00～14:00 ※要申込み



## 休館日カレンダー

■ = 休館日

□ はイベント開催日

11 November

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12 December

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2018/ 1 January

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

●開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日:火曜日・祝日の翌日・年末年始  
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料:一般250円(団体20人以上で120円)  
高校・大学生120円(団体60円)

※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者および介助者は無料

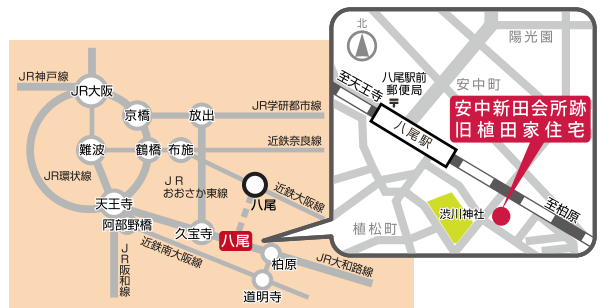
●お問い合わせ・見学のご相談 ※団体予約で案内も行なっています

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行

JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

# 本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。  
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、  
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう  
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。  
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、  
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、  
地域経済を活性化させたいと思っています。

